

令和5年度 第2回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

令和5年8月17日（木）18:30～20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者	10名…石黒、小串、笥、加藤（杏）、加藤（和）、小池、高澤、丸岡、山岸、村野
欠席者	0名
事務局	2名…地域コミュニティ支援課 山岸、里吉
指定管理者	2名…NPO法人YMCA コミュニティサポート 沼崎、茂澤
傍聴者	0名

- 配布資料
- 1 市民活動サポートセンター例月実績報告・利用者の声
 - 2 夏のボランティア・市民活動体験 2023 中間報告
 - 3 のたろんフェア 2024 について
 - 4 サポートセンターデータベース登録団体一覧（新規・異動分）
 - 5 市民公益活動団体継続活動者表彰について（非公開）

1 報告事項

1-（1）利用状況、利用者の声について

指定管理者及び市から、資料1-1及び1-2に沿って報告した。

（指定管理者：汐入について）

- ・横須賀市の公共施設の利用状況の緩和に伴い、4月から利用の制限を撤廃したことにより昨年度よりは上向いている。
- ・日中テーブルがすべて埋まっているという状況も時々あるので利用状況は戻りつつあるという感じではあるが、まだコロナ禍以前には戻っていない。
- ・主な要因としてコロナの間にリモート会議が世間に浸透したため、夜はリモートで会議を行う団体が増えたことから夜間の利用が減ったのではないかと思われる。
- ・特に若い世代はSNSなどのオンラインを利用してミーティングをしているところも増えていると推測される。
- ・団体については削除団体もあるがそれを上回る数で登録が増えている。
- ・コピー機の利用実績が前年度比で上回っているのはカラーコピーの利用が増えたためであるが、なぜ増えたかというのははっきりしないが、大量にカラーコピーが必要な場合サポセンだとコンビニなど他施設と比べて比較的落ち着いて作業できるのではないかと思われる。
- ・活動紹介コーナーの利用実績で月によってばらつきがあるのは、増えた月にはその時に展示をしたある団体が当該期間に常駐して展示内容の説明をしていたことやそれに合わせて団体の広報が功を奏したことが要因と考えられる。
- ・声の大きさに関するご意見については、スタッフが注意することもあるが、現在は利用制限を撤廃していることから、利用制限中に比べると隣との間隔が狭くなっていることから、隣の声が気になるというものはあるかもしれない。

(地域コミュニティ支援課：久里浜について)

- ・利用状況については前年度比で増となっているが、それは今年4月にコロナの制限を撤廃したことや、5月から5類に移行したことが影響していると思われる。
- ・コピー機印刷機の利用状況については前年比では多少の増減はあるものの、コロナ禍以前の利用状況にはまだ戻っていない。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・ご意見ご要望として寄せられた内容の対応結果を市民の方が知ることはできるか。
→館内掲示及びサポートセンターホームページ等に掲載している。(指定管理者)
- ・説明の中で「コロナ禍以前と比べて～」という言葉があったので、比較できる資料があるとわかりやすい。
→別資料としての提供を検討する。(指定管理者)
- ・曜日・時間別のグラフを見ると曜日によってばらつきが多いように思う。この理由を分析することで、他の少ない曜日に来館者を増やしたい場合に施設側としてどういった対応をすればよいかといったようなことが見えてくるのではないか。
→結果の分析まではできていないが、水曜日は比較的混みやすく、予約も多い。(指定管理者)
→商店や医療機関の休みもその要因かもしれない。
- ・施設内の声の大きさに関するご意見があったが、施設がオープンスペースであるため確かに声が通りやすいように感じる。対策としてホワイトボードなど仕切るということであったが、それでは目線は防げるが声は防げないと思う。声の大きさの問題に関しては主観的な部分もある。施設として工夫した部分を示せば施設に対する評価にも結び付く。
→ご意見として参考とさせていただく。(指定管理者)
- ・交流サロンで活動していると明らかに市民活動をしている人ではない人が例えばトイレを借りに来るという理由だけで施設内に入ってくるように見受けられる。そういった人たちについてスタッフで対応するのは他の業務に影響がでるので、施設の目的を入りに掲示などしてみてもどうか。
→そういった対応は施設の管理スタッフとして当然に行うべき業務であると考えているので、掲示等で案内することは考えていない。むしろ、まずは入りやすい施設とすることで、そういったきっかけから施設を知ってもらうことも必要であると考えている。(指定管理者)
- ・サポセンは市民活動のための施設ということだが、市民活動の定義はあるのか
→横須賀市については市民協働推進条例で市民公益活動について定義されている。非営利の活動であれば概ね該当するが、特定の政党や候補者を支援する活動や宗教の布教活動を目的とした団体の活動はそれがたとえ非営利であっても対象外となっている。(指定管理者)
- ・4月と6月に活動紹介コーナーの利用人数が増えた要因となった団体があり、その団体は活動紹介コーナーで見学者に説明などを行っていたということだが、声の大きさなどで周囲に影響はなかったか。
→声の大きさは主観の問題もあるが、特に影響は感じていなかった。その団体は掲示期間である2週間毎日常駐していたので人員的な負担はあったと思われる。(指定管理者)
- ・サポセン館内での個人的な学習は一部エリアを除き不可というのだが、市民活動のための学習などその学習内容によっては問題ないのでは。
→ご指摘のとおりその学習が活動に必要なものであれば可能である。(指定管理者)
→サポセンを知ってもらう機会にもなる。

→夏休み期間には割と高校生などが学習に利用している場合もある。館内には活動に関する掲示物が多くあり、それらが目に入ることで市民活動を知ってもらう機会にもなる。(指定管理者)
→気になるようであれば上のフロアにある産業交流プラザを案内するというのも考えられる。

1ー(2) 夏のボランティア・市民活動体験 2023 中間報告について

指定管理者から、資料2に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・参加団体は29団体33イベント。ほぼコロナ禍以前に戻ってきている。
- ・参加団体説明会を団体交流を兼ねて6月28日に開催した。
- ・広報に関しては例年同様市役所への展示、サポートセンターでの展示、FMブルー湘南への出演等を行ったほか、周辺の大学や近隣の小学校や高校等への周知も行った。
- ・既に活動を行った団体からは報告書も届いているが、高校生や大学生のボランティア参加があったようである。
- ・8月27日まで実施し、9月には参加団体報告会を開催予定。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・夏のボラ市に団体のメンバーとして参加した。当日の活動場所が建物の上の階にある部屋であったため、来場者が来るかどうか不安であったが、当日は子連れの親子も含め2組の来場がありとてもうれしかった。その場において次回サポセンで行う「のたろんキッズデイ」の案内もすることができた。

1ー(3) のたろんフェア 2024 について

指定管理者から、資料3に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・開催は来年の2月10日と11日。
- ・11名の実行委委員のうち、3名が初参加となる。
- ・企画については実行委員と詰めていくことになる。
- ・コロナも5類になったことで、まだ市内の感染状況の問題はあるが、フェアは従来の形に戻っていくのではと思っている。

(懇話会構成員からの質問・意見)

特になし

2 議題

2ー(1) サポートセンターデータベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から、資料4に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明した。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・NPOという名称が入っている団体は法人格はないのか。

→NPOは非営利活動団体という意味であることから、法人格を取得していない場合でも使用することがある。(指定管理者)

・今回の団体の中に公益性に印のついていない団体があるがそれはその団体が協同組合であるからか。

→登録時の必要資料である規約を確認した際、活動内容が互助的な活動であるように見受けられたため、団体に説明し公益性のある団体としての登録はしていない。団体の形態で判断しているのではなく、活動の内容で判断している。(指定管理者)

・一般社団法人から公益社団法人に変わった場合も登録変更の手続きは必要か。

→手続きしていただきたい。(指定管理者)

2-(2) 市民公益活動継続活動者表彰制度について (非公開)

地域コミュニティ支援課から制度の概要と、指定管理者から配布資料の概要を説明した。

※会議の内容は非公開とする。

3 その他

指定管理者から今後実施予定の事業である、8月26日開催の「のたろんキッズデイ」及び9月14日開催の「いきいき市民塾」について説明があった。

(懇話会構成員からの質問・意見)

特になし

連絡事項

(事務局)

・第3回運営懇話会は令和5年11月16日(木)18:30~サポートセンターにて開催予定。

以 上